

回数	調査時期	調査対象	調査数量	組成品目	備考
第1回	S62.1	新築系混合廃棄物	4tダンプ 30台	13種類	コンクリート類(建設廃材)・廃プラ・塩ビ管・鉄くず・アルミ・電線・ガラス・石膏ボード・耐火被覆・木くず・ダンボール・紙くず・残渣(木くず・紙くずは一廃扱い)
第2回	H2.6	新築系混合廃棄物	4tダンプ 58台	14種類	石膏ボード・耐火被覆を削除し、空き缶、生ごみ、処理困難物を追加。
第3回	H5.11	新築系混合廃棄物	4tダンプ 94台	16種類	石膏ボード復活、再生不可可燃物を追加、梱包材が増え、生ごみ減る。
第4回	H8.9	新築系混合廃棄物 2種類 無分別混合 分別混合	4tダンプ 107台 4tコンテナ 46台	16種類	分別現場は石膏ボード、木くず、ダンボールの割合が少なかった。
第5回	H10.9	新築系混合廃棄物 3種類 多分別混合 分別混合 非分別混合	4tダンプ 45台 4tコンテナ 46台	23種類	法改正の新基準に合わせて、廃プラ、金属、ガラ陶、繊維くずの管理型品目と紙くず(再生不可)、ロックウール、ALC、追加 安定型と管理型の割合逆転(管理型6割以上)
第6回	H13.10	新築系混合廃棄物 2種類 集合住宅 事務所・その他	ダンプ 65台 コンテナ 55台	26種類	今後のリサイクルを考慮し、廃プラを軟質、硬質に区分するとともに、PET、発泡スチロール、木くず(再生不可)を追加、ALCは少ないため削除。集合住宅は石膏ボード、木くずの割合が多い。
第7回	H15.12	解体系混合廃棄物	4tコンテナ 11台	17種類	各品目とも再生不可のものが多く新築系に比べると、金属くず、コンクリートガラ、紙くずの割合が極端に少なく、選別できない複合材が多く占める。重量は新築系の1.4倍で密度が高くなっている。
第8回	H18.11	新築系混合廃棄物	360m <sup>3</sup>	27種類	コンクリートガラ・木くずは減少傾向。建設リサイクル法の影響で分別が進んだと考えられる。廃石膏ボードの分別はかなり浸透しており、組成割合が下がる傾向。
第9回	H20.11	建設混合廃棄物	600m <sup>3</sup>	7種類	国土交通省から初の受注業務。新築工事(ビル、木造)、解体工事(ビル、木造)及び土木工事から発生した廃石膏ボード(4種類)と廃塩化ビニル管・継ぎ手(3種類)の組成を調査。
第10回	H23.2	建設混合廃棄物	300m <sup>3</sup>	16種類	国土交通省からの受注業務。新築系混合廃棄物(ビル、木造)と解体系混合廃棄物(木造)工事種類の異なる混合廃棄物を調査。